

滋賀県文化情報

『えんむすび』

●「第75回滋賀県美術展覧会」

作品募集のお知らせ

滋賀県美術展覧会は、広く県民の皆さんが日頃の創作活動の成果を発表する場、また、身近に芸術を鑑賞する場として毎年開催しています。今年は、令和3年6月にリニューアルオープンした滋賀県立美術館での5年ぶりの開催となります。大きな困難に直面する今だからこそ生み出せる、精一杯の表現を目指し、多くの力作を御応募ください。

■展覧会

【会期】

前期(工芸・書)12月9日(木)～14日(火)
後期(平面・立体)12月17日(金)～22日(水)

【会場】滋賀県立美術館 ※月曜休館

(大津市瀬田南大萱町1740の1)

■その他

公開審査

(平面・立体) 12月1日(水) 11時～

(工芸・書) 2日(木) 11時～

※見学者は出品者限定。往復ハガキによる事前申込制。(各部門、定員5名)

審査員による講評会…12月12日(日)

(工芸・書) 11時～

(平面・立体) 14時15分～

■募集要項等問合せ先

(公財)びわ湖芸術文化財団 地域創造部まで

(TEL)077・523・7146

●「未来へつなぐ

しが文化活動応援事業」

文化芸術活動に対する支援を行います!

新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う文化芸術活動の自粛等により、県内での公演等の実施機会を失った文化芸術活動者に対して、活動を再開するための費用を支援する「未来へつなぐ しが文化活動応援事業」を実施します。滋賀県を文化芸術で盛り上げるため、文化芸

術活動をされている読者の皆様は是非ご利用ください。ご不明な点はお気軽に事務局にお問い合わせください。

■申請期間

令和4年1月17日(月)【消印有効】まで

■お問合せ先

「未来へつなぐしが文化活動応援事業」事務局(公益財団法人 びわ湖芸術文化財団内)
電話 077・5233・7146、9時～12時、13時～17時(毎週火曜日、8月13日～18日、12月29日～1月3日を除く)
また昨年度、この補助金を活用いただいた皆様の活動を県のホームページで公開しています。ぜひご覧ください。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/>
<https://www.pref.shiga.lg.jp/bunakaspports/bunkageizyutsu/314207.html>

- 応募資格 滋賀県内に在住または通勤・通学する方(中学生以下は除く)
- 応募部門 平面(日本画・洋画など)、立体、工芸(陶芸・染織など)、書の4部門
- 作品搬入

【平面・立体・工芸・書】11月27日(土)

於：県立文化産業交流会館

【平面・書】11月27日(土)、28日(日)

於：草津クレアホール

【立体・工芸】11月27日(土)、28日(日)

於：県立美術館

※いずれも10時30分～16時

【未来へつなぐ しが文化活動応援事業のホームページ】

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/317832.html>



※別途、以下のとおり県内文化施設の施設利用料の1/2を支援する「文化芸術公演支援事業」も行っています。

【文化芸術公演支援事業のホームページ】

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/315347.html>



Made in Shiga

身近に感じる「美」の世界

古い町並みで花開くガラスの工芸祭

「ナガハマガラスフェス2020」

ナガハマガラスフェス実行委員会 田中 仁

「ナガハマガラスフェス2020」は、長浜の北国街道に点在する大切に守られてきた歴史的建造物や古民家が会場となり、多彩なガラス文化を発信する創造交流型ガラス工芸祭として、展覧会や制作体験、飲食店を含む12の施設で16日間開催し、多くのお客様に楽しんで頂きました。

●第3回 北近江サケグラス公募展

湖北の銘酒を楽しむサケグラスを作家から公募し、観覧者の人気投票で賞を決定する



写真① 第3回 北近江サケグラス公募展

写真② みんなのグラスデザイン画
コンペティション2020写真③ LOCAL COLOR
～ぬくもりのガラス～

県内で実施されている美の魅力発信に関する取り組みを紹介します。

公募展を長浜慶雲館で開催。全国から106点もの作品が集まり、荘厳な慶雲館が一層の煌めきで埋め尽くされました(写真①)。作品は様々な技法や色彩が施されて個性豊か。人気投票数は1,783名に至り、観覧者からは「どれも綺麗で選べない」や「お酒が美味しく楽しめそう」等の声をいただき、ガラス作家と蔵人、観覧者が高い文化性の中で繋がる場づくりができました。

●みんなのグラスデザイン画

コンペティション2020

全国の小中学生に欲しいと思うガラスデザイン画を募集し、優秀な作品をガラス作家の手で実物化する展覧会。子どもたちの純粹

な感性や創造性から生み出されるデザイン画と、ガラス作家がデザイン画を基に制作した12作品を展示した会場(写真②)では、子どもたちを含む2,924名の来館者で賑わいました。ガラス作家は斬新なアイデアに感嘆し、子どもたちからは実物化されたガラス作品に目を輝かせ、普段は中々関わることがない両者から生まれるクリエイティブなガラス工芸の可能性を感じることができました。

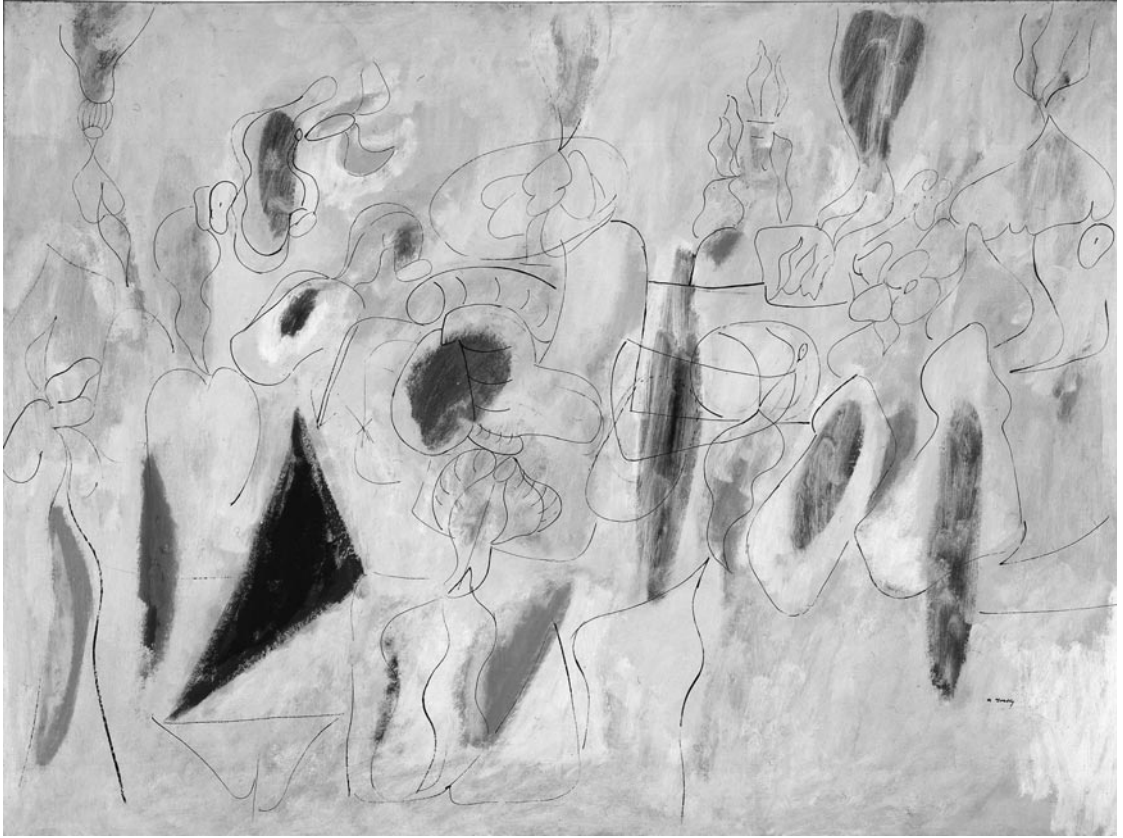
●LOCAL COLOR ～ぬくもりのガラス～

地域の特産品とガラス工芸の出会いから生まれる、暮らして溶け込むガラス文化の「色」と「心」を紹介する作品展を開催(写真③)。高松市の庵治石や東京新島のコーガ石、丹波篠山の黒豆や琵琶湖の水草、淡水真珠の貝殻を、溶けたガラスの中に混ぜることで温もりのある独特な色彩が生まれる世界に、多くの方が関心を寄せました。特産品を新たな視点でガラスとコラボレーションすることで、地域ガラス工芸の多様な可能性を発信しました。

長浜の歴史深い街並みとガラス工芸が溶け合うことで生まれる新しい文化の魅力を、創り手と使い手、そして地域全体で分かち合い、日々の暮らしが心豊かなものになる一助になれば幸いです。

NAGAHAMA GLASS FES 2020

<https://nagahama-glass-fes.com/>



アーシル・ゴークー《無題 [バージニア風景]》 1943~44年頃
油彩・カンヴァス 86・4×116・8cm

作品の声をきく

9月18日(土)～11月14日(日)に開催予定の「リニューアル記念コレクション展 回って遊ぶ声(仮称)」は、滋賀県立美術館の収蔵品を、ジャンルや年代の別なく紹介する回遊式の美術館を舞台にした展覧会です。

作品をよく見ることは、その「声」を聞くことと似ています。本展は作品が内に秘めた「声」をテーマに、近代日本画、郷土美術、現代美術、アール・ブリュットの新たな結びつきを模索します。そしてゲストアーティストの田村友一郎、中尾美園、dot architectsを招

き、彼らが聞き取った「声」をコレクションの中に木霊させていきます。

本展出品作のひとつ、アーシル・ゴークー《無題 [バージニア風景]》は、作家の故郷アルメニアと、アメリカ・バージニア州の風景を重ねた作品です。本作では、有機的な形態と変幻する色斑をずらしつつ重ねながら、生命の混沌としたエネルギーや浮遊感を描き出しました。画面からは、生き物たちが蠢く声や、遠い故郷に対する作家自身の揺れ動く感情が聴こえてくるようです。

県美への誘い

滋賀県立美術館 学芸員 渡辺亜由美



オペラ日和

●名作オペラ《つばめ》を愉しむ^{たの}

びわ湖ホール 総括プロデューサー 館脇 昭

依然として新型コロナウイルスの勢いが収まりません。首都圏を中心に3回目の緊急事態宣言が発令され、イベントや舞台芸術公演にも多大な影響がでています(2021年4月末現在)。びわ湖ホールでは、今後の感染の広がりに注意してその時々に必要な最大限の感染対策をとりながら、公演の安全な開催に向けて慎重に準備を進めてまいりますので、安心してお越しください。

今年の秋には、プッチーニが作曲したオペラ《つばめ》を中ホールで上演します。プッチーニが作った全12作中の8作目にあたるオペラで、1917年3月モンテカルロ歌劇場で初演されています。この翌年に《外套》《修道女アンジェリカ》《ジャンニ・スキッキ》からなる3部作を発表、そして遺作となった《トゥーランドット》へと続きます。プッチーニの人気青春群像作《ラ・ボエーム》の発表から実に20年以上後の作品です。ゆつくりとしたワルツのリズムや映画音楽のように美しく抒情性に溢れた曲想でフランス第二帝政時代のパリを雰囲気豊かに描き出します。1幕で主人公の女性マгдаが自分の愛への憧れを歌う「誰がドレッタの美しい夢を」、2幕で主人公の男性ルッジェーロがマгдаへの愛を歌い出し他の出演者や合唱を巻き込んで盛り上がる「あなたのさわやかな微笑みに乾杯」など名曲揃いで、最近になって作品の価値が大きく見直されています。



2021年1月公演、「魔笛」の一場面

指揮の園田隆一郎と演出の伊香修吾は、息の合ったタッグで2018年の《ドン・ジョヴァンニ》を見事に成功に導いており、今回3年ぶりの登場です。キャストは実力派オペラ歌手で構成する「びわ湖ホール声楽アンサンブル」が務めます。どうぞご期待ください!

オペラへの招待

プッチーニ作曲

オペラ《つばめ》全3幕

(イタリア語上演・日本語字幕付)

日時 2021年10月8日(金)~11日(月)
4日間とも14時開演

指揮 園田隆一郎

演出 伊香修吾

出演 びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽 大阪交響楽団

チケット 5,000円(一般)、
2,000円(青少年)
8月7日(土)発売開始

●第33回 ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞

びわ湖ホールは今年4月、音楽関係の評論家など約160名で構成される「ミュージック・ペンクラブ・ジャパン」が年に一度選出する音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)をいただきました。受賞理由は「開館以来オペラの自主制作と人材育成の明確な理念で全くぶれることなく運営。ワグナー「ニーベルングの指環」4部作西日本初の通し上演を完結。最終年の《神々の黄昏》は無観客上演の配信で驚異的アクセス数を記録。びわ湖ホール専属の声楽アンサンブルを昨年早世したテノールの二塚直紀をはじめ、名歌手輩出のプラットフォームにまで発展させた」と劇場運営全般について高く評価いただきました。新型コロナウイルスが厳しい状況ではありますが、今後とも舞台芸術の普及・振興に邁進いたします。